

上伊那総合技術新校（仮称）再編実施基本計画

1 再編統合対象校

辰野高等学校の商業科、箕輪進修高等学校の工業科、上伊那農業高等学校、駒ヶ根工業高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 17 年度以降

学校規模の縮小化が避けられない状況の中、上伊那地区 4 校にわたる統合となり、総合技術高校として、施設の整備期間等を考慮し、新校の募集開始年度を令和 17 年度以降とする。

3 活用する校地・校舎

上伊那農業高等学校

新校で構想する学びの実現、学校規模、生徒の諸活動を支える施設・設備と校地の広さを考慮し、新校は、上伊那農業高等学校の校地・校舎を活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 農業科・工業科・商業科 3 学科あわせて 5～6 学級程度

農業科、工業科、商業科を設置する総合技術高校として、専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた 3 科の連携した学びが実現できる教育課程を編成する。

上伊那地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 5～6 学級程度が想定される。

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

「専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた 3 科の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる高校」を構想する。

6 統合新校の施設整備について

- ・使用可能な既存施設は有効に活用することを前提とし、再編統合による生徒数の増加や学科の改編等に対応するために必要な施設整備を行う。施設整備にあたっては、新たな学びや現在の生活スタイルに対応するよう配慮する。
- ・施設整備に係る概ねの期間 10 年程度を想定

自己を磨き、みらいをデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

- 専門性・社会性や人間力を育み、地域や自分自身のみらいをデザインできるひと
- 上伊那で学び、地域・社会を元気にできるひと
- 多様な人々との協働を通して、主体的に行動し、学び続けることができるひと
- 幅広い視野や、多様な価値観を持ち、学びを活かして、社会に貢献できるひと

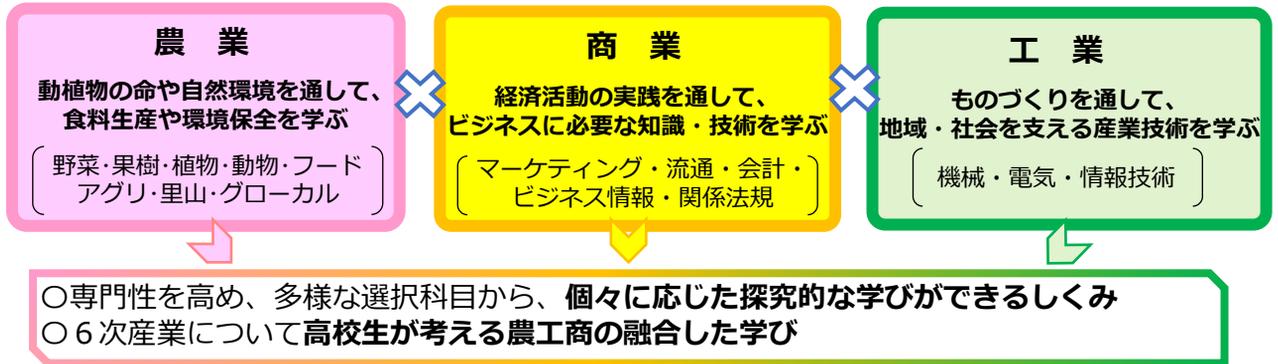
目指す学校像

- 専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた農工商の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる学校
- 上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が成長できる学校
- 多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウェルビーイング*」を実現できる学校
- 生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会のみらいを創造できる学校

*身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那のみらい



学びの連携プラットフォーム

ミックスホームルーム
3科融合したクラス編成

新たな単位認定
学校外学習の単位認定
学校間連携による単位認定等

3科協働を支える施設
プレゼンルーム クリエイティブラボ (協働実習室)
ウェルビーイングルーム (魅力発信研究室) 等

○学科の枠を超えた学び

- ・学科の枠を超えた学びの実践により「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等、調和のとれた、持続可能な社会の実現に貢献できる資質・能力を育成する
- ・学科の枠を超えた学びを通して人間性を高め、自らみらいをデザインできる力を育てる
- ・共通した学びによりDX時代に対応できる力を育てる
(AI・データサイエンス・プログラミング・メタバース・ドローン等)

○みらいの産業界のつくり手の育成

- ・様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的・多面的な職業能力を育む
- ・地域連携を通じて上伊那地域全域を舞台に、探究し、発信できる力を育む
- ・上伊那総合技術新校での学びを最大限に活かした資格・検定へ挑戦する力を育む

地域連携協働室を創設し、地域連携コーディネーターを配置

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、イノベーションの創出に貢献できる生徒を上伊那地域全域で育てるシステム

市町村

上伊那広域連合

信州大学

南信工科短期大学校

青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)

各種学校 (幼保小中高大特支)

産業界

学びを支えるデュアルプラットフォーム